

在留邦人の皆様へ

カンボジアにおける原因不明疾患について

平成24年7月10日
在カンボジア日本国大使館

1. 7月8日、カンボジア保健省は、世界保健機関と共同で、カンボジアにおける原因不明急性呼吸器疾患についてプレスリリースを発出しましたところ、概要以下の通りご連絡します。

2. カンボジア保健省及び世界保健機構共同プレスリリース

- (1) 本年4月から7月5日の間に59名の小児が発病し、52名が死亡した。
- (2) その年齢構成は生後3ヶ月から11歳までで主に3歳以下が多い。
- (3) 直近の検査結果でエンテロウイルス71 (EV71) が検出された。このウイルスは一般に手足口病 (HFMD) の原因ウイルスとして知られている。
- (4) また、その他のサンプルからデング熱、Streptococcus suis も検出されている。
- (5) H5N1、他のインフルエンザウイルス、SARS及びNiphaは検出されていない。
- (6) 現在更なる調査を進めている。

3. 上記の通り、カンボジア保健省は、現在更なる調査を進めているところですが、今回の発表はカンボジアにおける原因不明疾患 (前回発表時は原因不明急性呼吸器疾患) の原因を全て明らかにしたものではありませんので、引き続き報道等に注意を払うようお願いいたします。新たな情報がありましたら、改めてご案内いたします。

<参考>手足口病について (日本 国立感染症情報センターHPの情報を転載)

(1) 手足口病は、口腔粘膜、四肢末端に現れる水疱性の発疹を主症状とする幼児を中心に流行する急性のウイルス性疾患です。患者発生は世界中に見られますが、最近ではベトナムで流行が認められました。原因となるウイルスは、エンテロウイルスの中のコクサッキーA16型 (CA16)、エンテロウイルス71型 (EV71) が主なものです。

(2) 感染経路としては、経口、飛沫、接触のいずれの形をとる場合があります、患者の咳や排泄物には注意して下さい。外出後は手洗いやうがいを励行して下さい。

(3) 潜伏期間は、3~4日と比較的短いですが、主な症状が消失しても3~4週間は糞便中にウイルスが排泄されることがありますので、取り扱いには十分注意して下さい。

(4) 主な症状としては発熱38度前後が数日続き、その後上記の発疹 (口の場合は痛みを伴う) が出現します。また、下痢などの消化器症状が出ることもあります。ウイルスが原因のため抗生

物質の効果はなく、対症療法しか方法はありません。まれに、中枢神経症状(意識障害、傾眠)の症状が出る事があり、その場合は直ちに医療機関を受診して下さい。

○在カンボジア日本国大使館 領事班

電話：023-217161～164

緊急連絡先（平日昼休み）：016-835430

緊急連絡先（平日夜間及び休館日）：016-816911

大使館ホームページ：<http://www.kh.emb-japan.go.jp>

Eメール宛先：consular_jpn@pp.mofa.go.jp

【お願い：在留届の内容に変更がある場合や帰国の場合には、必ず当館にご連絡下さい。】